

平成23年度 実施メニュー実施結果表

取組名	木材需要拡大PR研修会 「木の魅力を知り木を学ぶ現地体験研修会」(継続)
流域名	阿武隈川流域
実施箇所及び実施日	福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳国有林 外 平成23年11月25日
取組の背景及び必要性	日本の人工林は資源的な充実が進む中、住宅資材において地域材の利用を更に促進させるためには、流域内の各機関、団体が連携して地域材の特徴・魅力を広めるとともに、地域材を利用することによって多面的な機能を発揮する健全な森林が育成されることへの理解が促されるよう川下側への積極的な情報発信を行う必要がある。
取組の内容	建築技術者をめざす実業学校(建築科)の学生を対象に、木材の生産現場から建築材として利用されるまでの流れを実際に見て・感じ・考えてもらう研修会を阿武隈川流域林業活性化センター、郡山地区木材木工工業団地協同組合等との連携により実施した。
国有林担当部局・役割	福島森林管理署：川上側の現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催、郡山地区木材木工工業団地協同組合、地球と家族を考える会、福島県立テクノアカデミー郡山職業能力開発校と連携、協力：企画運営、現地説明

【参考資料】

取組名 木の魅力を知り木を学ぶ現地体験研修会

- 国有林の取組、森林の多面的機能等について解説



- 高性能林業機械による間伐木の伐倒作業



- 高性能林業機械による造材



- 高性能林業機械による運材



- 丸太から建築材になるまでの工程を見学（国産材の特徴と魅力を伝える）



- 国産材使用の住宅にて（木のぬくもりを実感）



平成23年度 実施メニュー実施結果表

取組名	森林公益的機能PR推進事業（継続）
流域名	阿武隈川流域
実施箇所及び実施日	別表のとおり
取組の背景及び必要性	<p>近年、森林が有する水資源かん養等の公益的機能に加え、地球規模での環境問題、生物多様性に対する森林の役割等、森林の多面的機能の発揮等への期待や関心が高まっている。</p> <p>このため、森林環境教育プログラムの実践活動を地域と連携し、効果的な取組を推進する必要がある。</p>
取組の内容	<p>森林の持つ多面的機能について普及するため、ふれあいの森や遊々の森の活動支援や、森林生態系を学ぶ観察会等を実施した。</p> <p>なお、東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故等の影響により、例年に比べ限定的な取組となった。</p> <p>（取組毎の詳細については、別表を参照）</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署 フィールド提供、現地指導等
連携協働相手先・役割	連携協働相手先：別表のとおり 役割：参加者募集、企画運営

【参考資料】

取組名	森林公益的機能PR推進事業
-----	---------------

別表

平成23年度 森林公益的機能PR推進事業実施状況						
NO	実施年月日	名称	場所	連携機関	参加人数	取組の概要
①	H23.9.25 ~ H23.10.23	土湯の森づくりプランによる森林整備・説明会・自然観察会(3回実施)	福島市土湯温泉町日向 国有林 外	NPO法人 土湯温泉観光まちづくり協議会	延べ 81名	「ふれあいの森」の森づくりボランティアの活動支援、参加予定者への説明会、現地での自然観察会の指導
②	H23.10.8	民友の森「親子木工教室」	福島市土湯温泉町猪ノ倉 国有林	福島民友新聞社	35	遊々の森における親子木工教室の指導、森林の多面的機能等の解説
③	H23.10.15	国際森林年企画 幕滝周辺自然観察会	福島市土湯温泉町鷺倉 山国有林	福島県自然保護協会	17	吾妻山森林生態系保護地域バッファゾーンにおける生物多様性等を学ぶ観察会(暑企画事業)
④	H23.10.22	福島県林業祭(林業復興応援イベント)	郡山市安積町成田 (福島県林業研究センター)	福島県	多数	福島県主催のイベントへの参加(当署は、丸太切り、木工教室の指導を担当)
⑤	H23.11.13	市民と森林をつなぐ国際森林年の集い in 福島	郡山市熱海町 (郡山ユラックス熱海)	福島民友新聞社、福島中央テレビ、国際森林年国内委員会事務局	200	「ふるさとの森と水の大切さ」を発信するシンポジウム、「森を歩く」をテーマに、福島県内の国有林の見所を紹介するパネル展
合計		実施回数：7回		延べ参加人数：	333名(不特定多数の参加によるイベントを除く)	

【取組状況写真】

① 「ふれあいの森」における森林整備ボランティア



② 福島民友新聞社主催の親子教室



③ 森林生態系を学ぶ観察会



④ イベント参加 (福島県林業祭)



平成23年度 実施メニュー実施結果表

取組名	民・国連携による効率的な路網の整備（路網技術検討会）（継続）
流域名	阿武隈川流域
実施箇所及び実施日	福島県田村市常葉町早稲川字早稲川地内 平成23年12月12日 福島県福島市松川町水原字南沢国有林外 平成23年11月30日、平成24年1月13日
取組の背景及び必要性	<p>「森林・林業再生プラン」の目標を実現させるには、低コストで崩れにくく継続的に利用できる路網の整備を加速化していく必要がある。</p> <p>このため、民・国が連携して路網作設に関する技術や課題の共有化が求められている。</p>
取組の内容	<p>国有林に隣接する民有林内において、路網作設オペレータ上級者を講師として、低コストで崩れにくく継続的に利用できる路網の作設技術に関する検討会を実施した。</p> <p>また、平成23年2月に設定した森林共同施業団地（6者による協定）において、効率的な路網整備に向けた検討会を実施した。</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署：現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催 福島県農林事務所、市町村、田村森林組合と連携 ：企画運営、現地説明

【参考資料】

取組名 民・国連携による効率的な路網の整備

- 路網作設オペレータ上級者が作設した路網



- 路網作設オペレータ上級者から作設上のポイント等について解説



- 参加者全員で、作設状況を確認



- 現地を確認しての意見交換会



- 森林共同施業団地において、路網の作設状況を確認



- 図面や衛星写真等を見ながら、団地内の森林の現況や効率的な路網計画等について討議



平成23年度 実施メニュー実施結果表

取組名	低コスト造林システムの検証（コンテナ苗木による低コスト造林現地検討会）（継続）
流域名	阿武隈川流域
実施箇所及び実施日	福島県郡山市安積町（福島県林業研究センター） 福島県郡山市熱海町安子ヶ島字安子ヶ島国有林 平成23年6月23日
取組の背景及び必要性	<p>木材価格が低迷する中で、低コスト化に向けた造林技術の普及・定着が課題となっている。</p> <p>当署においては、平成21年度から他は先駆けてコンテナ苗木を導入し、再造林費の削減を目指した実証的な事業に着手しており、コンテナ苗木の成長量等データの蓄積・共有化等による成果の普及が期待されている。</p>
取組の内容	<p>参加者が自らコンテナ苗木の植樹を体験する実演会、コンテナ苗木の特徴や課題等について関係者の認識を共有化させるための検討会を阿武隈川流域林業活性化センターとの共催により実施した。</p> <p>植付時の作業工程や成長量等の調査を継続して実施し、その成果について、（社）日本森林技術協会主催の森林技術コンテスト、林野庁主催の業務研究発表会において発表した。</p>
国有林担当部局・役割	福島森林管理署：企画運営、現地説明等
連携協働相手先・役割	阿武隈川流域林業活性化センターと共催 福島県農林事務所、福島県林業研究センターと連携 ：参加者募集、企画運営

【参考資料】

取組名 低コスト造林システムの検証

- 福島県林業研究センターで開催された検討会



- 職員が、コンテナ苗木の特徴や植付功程調査、成長量等の調査結果や考察について説明



- 参加者からの質問・意見に対してコメントする職員



- 今年度の新植箇所におけるコンテナ苗木の植樹実演・体験



- 現地で、コンテナ苗木の特徴や植付の手順等について説明する職員



- 参加者全員が、1人10本程度の植樹を体験し、コンテナ苗木の植え易さ等を実感



平成23年度 実施メニュー実施結果表

取組名	民・国が連携した森林施業の効率化の推進（継続）
流域名	阿武隈川流域
実施箇所及び実施日	「豊かな森林づくりに関する覚書」に基づく連絡調整会議 平成23年6月8日、11月22日 「笹森山地区森林整備推進協定」に基づく運営会議・検討会 平成23年7月29日、11月30日、平成24年1月13日
取組の背景及び必要性	<p>福島県の森林を健全な状態で次世代に引き継ぐためには、森林の適正な整備や保全、森林資源の循環利用により、低炭素・循環型社会への転換を図るとともに、地域に根ざした力強い産業として林業を再生することが求められている。</p> <p>森林共同施業団地については森林・林業基本計画においても設定の推進が盛り込まれており、福島県で初めての設定として、具体的な取組について内外から注目されている。</p>
取組の内容	<p>関東森林管理局長と福島県知事との「豊かな森林づくりに関する覚書」に基づく連絡調整会議を開催し、森林・林業の再生に向けた連携体制を構築。</p> <p>同覚書に即して設定した森林共同施業団地（6者による協定）における効率的な路網整備や間伐の推進等に向けた運営会議、具体化に向けた現地検討会を実施した。</p> <p>さらに、地元市町村を加えての、森林・林業再生プランの目標達成に向けた集約化や効果的な路網等に関する検討会を実施した。</p>
国有林担当部局・役割	関東森林管理局計画課、福島森林管理署 ：民有林関係者との調整、各種情報提供
連携協働相手先・役割	森林農地整備センター福島水源林整備事務所、福島県北農林事務所、福島県林業公社、福島県北森林組合、水原生産森林組合：協定締結者 阿武隈川流域林業活性化センター：関係者との連絡・調整

【参考資料】

取組名 民・国が連携した森林施業の効率化の推進

- 「豊かな森林づくりに関する覚書」に基づく連絡調整会議（2回開催）



- 「笹森山地区森林整備推進協定」に基づく運営会議（2回開催）



- 地元自治体を交えての検討会



- お互いの施業地を見ながらの意見交換（写真は、国有林の列状間伐を説明しているところ）



- 効率的な路網の整備に向けた現地検討会



平成23年度 実施メニュー実施結果表

取組名	国際森林年への取組（新規）
流域名	阿武隈川・会津・磐城・奥久慈の各流域（福島県内全域）
実施箇所及び実施日	福島県郡山市熱海町熱海地内（ユラックス熱海） 平成23年11月13日 新聞記事での連載（5回） 平成23年10月27日～31日
取組の背景及び必要性	<p>平成23年は国連の定める「国際森林年」であり、年間を通じて、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全等について、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされ、従来から行っている森林の公益的機能PR推進の取組を強化し、広く県民に対する普及に努める必要がある。</p> <p>なお、福島県内全域にわたる取組であり、各流域間の連携により取組を推進する。</p>
取組の内容	<p>福島民友新聞社と福島中央TVにおいて、福島県内全域での国際森林年記念事業を展開する計画であったが、東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故等の影響により、国有林での森林整備の計画は中止となり、「ふくしまの再生 森と水シンポジウム」のみの開催となった。同シンポジウムには林野庁次長がパネラーとして参加したほか、「福島国有林の森を歩く」をテーマにしたパネルを出展した。</p> <p>また、「ふくしまの森を忘れない」と題した福島県内の国有林の見所を紹介した連載記事への協力を行い、5回にわたって掲載された。</p>
国有林担当部局・役割	関東森林管理局指導普及課 福島県内の各森林管理署、各支署 ：パネル展、新聞掲載記事への情報提供
連携協働相手先・役割	福島民友新聞社、福島中央テレビ ：企画運営

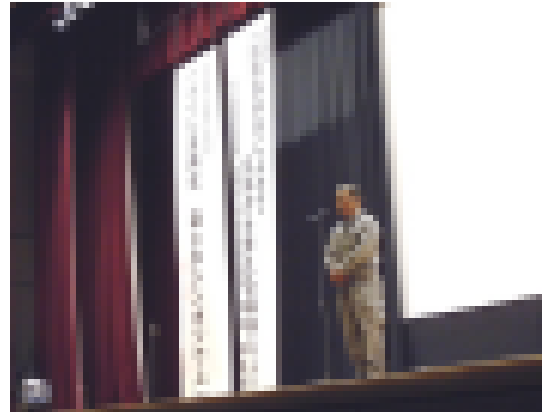
【参考資料】

取組名 国際森林年への取組

- 「ふくしまの再生 森と水シンポジウム」に参加した県民



- 同シンポジウムで挨拶する沼田林野庁次長



- 沼田林野庁次長は、パネラーとして参加



- 同シンポジウムに出展した「福島県の国有林の森を歩く」をテーマにしたパネル展



- 展示したパネルを見る参加者



- 「ふくしまの森を忘れない」と題した連載記事、県内の国有林を紹介

